



『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート
 第52号(2010年4月6日)「新しいインフラ」インド



一次エネルギー消費 (一次エネルギーとは、自然から採取されたままの物質を源としたエネルギーのこと。)

インドは、世界で最も高い経済発展の可能性のある国の一つとして、注目されております。しかし、同時に、二酸化炭素排出量も世界トップクラスです。その原因は、インドの一次エネルギー消費量事情にあります。インドは、アメリカ、中国、ロシア、日本に続く、世界5番目の一次エネルギー消費大国で、一次エネルギー消費のほとんどが二酸化炭素排出量の多い石炭や石油によるものです。一方、二酸化炭素排出量の少ない原子力や水力による一次エネルギー消費の比率は、世界的に見てもまだ低水準です。

環境配慮の姿勢を見せるインド政府

世界各国は、地球温暖化防止のために二酸化炭素の排出を減らそうと積極的に活動していますが、もちろんインド政府も黙ってはいません。2009年12月、インドのラメシュ環境相は、国内総生産(GDP)単位当りの温室効果ガス排出量を2020年までに2005年比で20-25%削減するという自主的な抑制目標を発表しました。このように具体的な数字目標を提示している新興国は、今のところインドと中国だけですが、経済発展と同時に環境にも配慮しなければならないという意識が、新興国の中でも徐々に高まってきているようです。

| | 一次エネルギー消費量 (100万TOE) | 石炭 比率 (%) | 石油 比率 (%) | 天然ガス 比率 (%) | 原子力比 率(%) | 水力比率 (%) | 1997-2007年平均 伸び率(%) |
|------|-------------------------|-----------------|-----------------|-------------------|--------------|-------------|------------------------|
| インド | 404 | 51.4 | 31.8 | 9.0 | 1.0 | 6.8 | 4.5 |
| 中国 | 1,863 | 70.4 | 19.7 | 3.3 | 0.8 | 5.9 | 6.8 |
| ロシア | 692 | 13.7 | 18.2 | 57.1 | 5.2 | 5.9 | 1.2 |
| ブラジル | 217 | 6.3 | 44.5 | 9.1 | 1.3 | 38.8 | 2.6 |
| 米国 | 2,361 | 24.3 | 39.9 | 25.2 | 8.1 | 2.4 | 0.7 |
| 日本 | 518 | 24.2 | 44.2 | 15.7 | 12.2 | 3.7 | 0.2 |
| ドイツ | 311 | 27.7 | 36.2 | 24.0 | 10.2 | 2.0 | ▲0.8 |
| 世界 | 11,099 | 28.6 | 35.6 | 23.8 | 5.6 | 6.4 | 2.2 |

注:①TOEは石油換算トン。

②GDP原単位当たりエネルギー消費量=一次エネルギー消費量/2007年のGDP

出所:BP Statistical Review of World Energy June 2008,
 International Financial Statistics March 2009(IMF),
 スパークス・アセット・マネジメント作成



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『 ぱんだより 』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



新しいインフラ時代

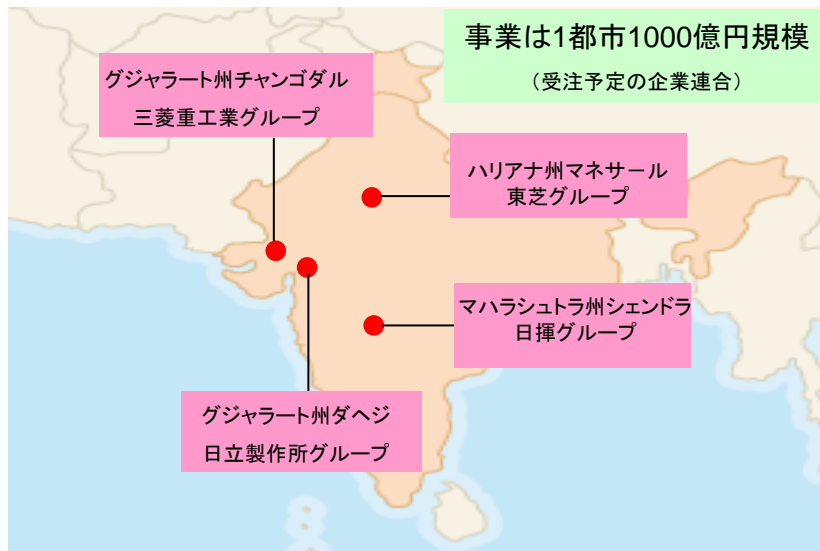
温室効果ガス排出量の削減に対して強い意志を見せたインドですが、もちろん、現段階のエネルギー事情や技術力では、削減目標を達成することはかなり難しいようです。そこでインドでは、環境分野の優れた技術を有する日本企業に援助を求め、新しいインフラを積極的に整備していく計画です。

インドの新しいインフラの中で特に注目しなければならないのは、次世代送電網(スマートグリッド)です。インドは、2011年まで日本企業を中心にデリーとムンバイ間の都市で実証実験を行い、2012年以降は全国十数の都市で実用化を目指します。その総事業費は、数千億円にも上ると想定されています。

様々な分野で高い技術力を誇りながらも、国内市場が飽和状態に近い日本企業にとって、新興国で事業を拡大することは大きな意味合いを持っています。一方、温室効果ガス排出削減が足かせになり成長を鈍化させたくないインドにとっては、日本企業の有する優れた技術を学ぶ良い機会だと考えられます。

インドは、まさに今環境に配慮した新たなインフラ時代を迎えようとしているのです。

インドでの日本企業の主な都市整備受注



出所: 日本経済新聞3月20日 スパークス・アセット・マネジメント作成

(編集後記) 先日中国政府は、スマートグリッド関連に2020年まで約50兆円を投資すると発表しましたが、今後益々新興国によるインフラ投資は活発化することが期待されます。中国やインドが、国としてスマートグリッドに注目することで、世界の環境インフラ企業にとっても大きなビジネスチャンスとなるでしょう。



(告られタイ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。